

平成 2 5 年度 第 2 回京都市政策評価委員会

日時：平成 2 6 年 3 月 2 7 日（木）

午前 1 0 時 0 0 分～正午

場所：職員会館かもがわ 第 2 会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

- 1 平成 2 6 年度の改善方針（案） 資料 1
- 2 平成 2 6 年度市民生活実感調査（案） 資料 2
- 3 その他

3 閉 会

（参考資料）

- 1 平成 2 5 年度第 1 回委員会における意見（要旨）
- 2 政策評価票の見直し（案）
- 3 評価方法の比較
- 4 平成 2 6 年度市民生活実感調査 調査票等一式

京都市政策評価委員会委員名簿

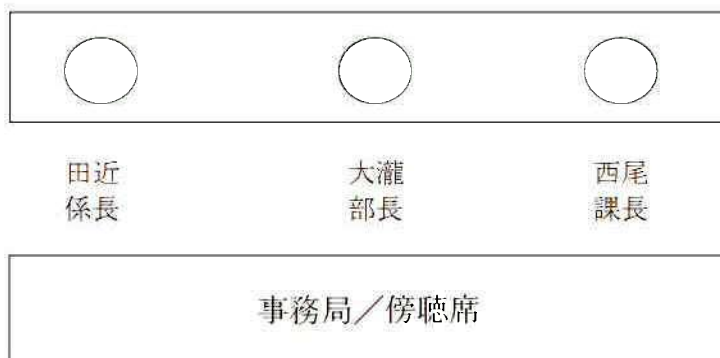
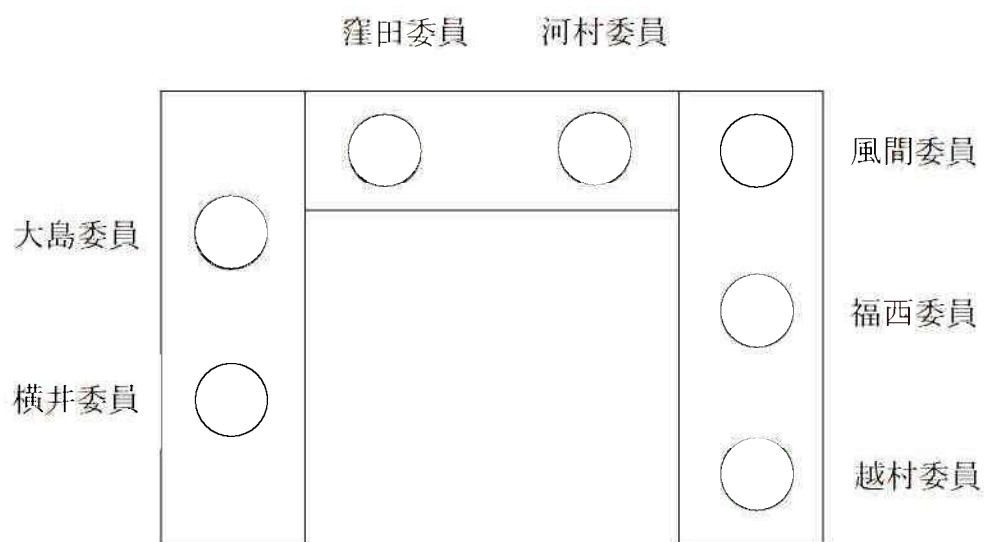
(敬称略・50音順)

氏 名	役 職 等
おおしま 祥子 大島 祥子	楽洛まちぶら会事務局，スーク創生事務所代表
かざま 規男 風間 規男	同志社大学政策学部教授
かわむら 律子 河村 律子	立命館大学国際関係学部准教授
くぼた よしお 窪田 好男	京都府立大学公共政策学部准教授
こしむら みほこ 越村 美保子	公募委員
ふくにし のぶじ 福西 惟次	公募委員
よこい やすし 横井 康	あずさ監査法人本部理事

任期：3年

- ・ 学識委員 平成23年7月1日～平成26年6月30日
- ・ 公募委員 平成23年9月1日～平成26年8月31日

平成25年度 第2回京都市政策評価委員会 配席図



(出入口)

平成 26 年度の改善方針（案）

1 平成 25 年度第 1 回委員会における意見を踏まえた見直し（案）

参考資料 1 平成 25 年度第 1 回委員会における意見（要旨）

(1) 評価方法について【客観指標の見直しの促進】

指標自体や目標値が実態に合わなくなった客観指標については、廃止を含めた見直しを行うよう、各局を促す。

- ・ 乖離の是正以前に、評価の基礎となる客観指標の設定が適切でなければならない。
- ・ 評価の継続性も重要であるが、「京プラン」に基づく評価の開始後 3 年が経過し、これまでの運用も踏まえて、見直しについても検討すべきである。

(2) 評価結果の分析と記載について【原因分析の充実とまとめ方の工夫】

① 評価票の記載の充実

- ・ 評価の基礎となった個々の客観指標と市民生活実感調査結果の原因分析、それに基づく市の課題と方向性等を明確にし、分かりやすく説明する。
- ・ 評価結果が著しく変動したり、数年にわたって改善の兆しが見られない場合は、経緯や背景なども含め、より丁寧に記載する。

② 冊子「政策評価結果」の記載の充実

- ・ A から E までの 5 段階評価に着目したこれまでの記載よりも、評価結果を踏まえた市の課題や方向性の記載に重点を置く。

- ・ 政策評価がより市政の推進に活用しやすく、市政の現状について市民に知ってもらいやすい制度となるよう、評価結果に関する記載の充実を図る。

参考資料 2 政策評価票の見直し（案）

(3) 制度の活用に向けて

① HP に政策評価制度の周知用コンテンツを掲載して、制度に関する市民の理解と評価結果の活用を促す。

② 更に HP を充実し、理解を深めていただく。

③ 「政策評価」と「基本計画実施状況報告」を連携させ、関連する評価結果と重要事業の進捗状況を一冊で見られるよう整備する。

【制度に対する理解の促進】

① HP からの制度周知用コンテンツの発信

- ・ 平成 24 年度政策評価委員会意見を踏まえ、「京プラン」に対応した政策評価制度の周知用コンテンツを作成中

- ・ A～Eの5段階評価の個数よりも、評価結果の原因分析や、それに基づく市の課題と方向性の記載に着目していただきたいことなど、分かりやすく丁寧に伝える工夫を尽くす。

② その他HPの充実

- ・ ①のほか、国の評価制度等を紹介するなど、政策評価に関する多面的な説明を行うことで、理解を深めていただく。

【評価結果の活用促進】

③ 基本計画実施状況報告との連携

- ・ 京都市は、基本計画に基づく重要事業等の進捗状況について、毎年度、政策評価結果と同時期に市会に報告し、公表している。
 - 根拠は「京都市会の議決に付すべき事件等に関する条例」
- ・ この「基本計画実施状況報告」との連携により、一人でも多くの方が政策評価に関心を持ち、市の説明責任の徹底につながることを期待される。

2 結論が得られなかったものに関する再検討

ー 政策と施策の評価結果の乖離について ー

(1) 前回委員会までの経緯

ア 現状の評価制度の経緯について

- 平成22年度以前の評価では、「政策」独自の客観指標はなく、関連する「施策」の指標のうち主要なものを用いて「政策」の評価を行っていた。
- ⇒ 平成23年度評価から、「政策」「施策」それぞれの段階に応じた達成状況を把握するため、「政策」独自の客観指標を導入

イ 運用後の動き

- 平成23年度評価において、「政策」と「施策」の評価結果の乖離の問題が発生した。

【主な事例】

- ・ 政策分野8「産業・商業」

＜乖離の要因＞ 政策指標「市内総生産」が景気を反映して低迷

【対応】 評価方法の見直しは特段行わなかった。

【理由】

- ① 「政策」「施策」それぞれに適切な指標を設定できれば、自ずと解消に向かうと考えられること。
- ② 特段の事情により著しい乖離が生じた場合は、市民に理解してもらえるよう説明を尽くす必要があると考えられること。

- 平成25年度評価においても同様に乖離が発生した。

【主な事例】

① 政策分野1「環境」

＜乖離の要因＞ 政策指標「温室効果ガス排出量削減率」が福島第一原発事故後の火力発電割合の上昇に伴い大幅に下落

② 政策分野2「文化」

＜乖離の要因＞ 政策指標「市民ふれあいステージ出演申込数」が大幅に下落（原因は不明）

【対応】前回委員会に見直しを提案

- ・ 「政策」の客観指標評価において、「施策」の客観指標評価結果を2分の1の割合で反映

【理由】

- ・ 市民に理解され、信頼されやすい制度とすること。
- ・ 市の取組改善に活用しやすい制度とすること。

ウ 提案に関する前回委員会での議論

(ア) 見直し案に懸念を示す意見

- ・ 「政策」の指標にも「施策」の指標にも限界がある。「政策」と「施策」の成果をそれぞれ大掴みできればよい。
- ・ 「政策」の指標のウェイトが下がってしまう。
- ・ 指標の設定の問題を除外して、乖離だけ是正しても、意味がない。
- ・ 乖離によって、逆に客観指標の改善や取組みの改善につながる。
- ・ 是正策によって見た目上の違和感をなくしても、かえって複雑で分かりにくい仕組みになる。

(イ) 見直し案を評価する意見

- ・ 見た目上乖離があると、恣意的な評価と誤解されやすい。
- ・ 「評価結果が外的要因に大きく左右されるのは、評価の仕組み自体がおかしいからではないか」という疑問に対応すべきである。
- ・ 外的要因の影響を少なくして、市が取り組んだ成果を評価した方が、評価制度の活用や改善につながる。
- ・ ただし、分かりやすい仕組みにすることが不可欠。

(ウ) 委員の意見に対する事務局のコメント

- ・ 次の2つの問題意識がある。今回、環境分野において、「政策」の評価が外的要因の影響を大きく受ける結果となった一方、下位の「施策」では行政の取組が直接反映される結果となったこと等から、
 - ① 「政策」と「施策」が全く別の観点でよいのかどうかということ。
 - ② 京都市の制度として有意義なものになっているのかどうかということ。
- ・ 問題意識及び委員会意見を踏まえ、市民実感評価と客観指標評価の枠組みを維持しつつ、評価の安定性を確保できる方法を再検討したい。

(2) 再整理（案）－ 市の考え方 －

参考資料3 評価方法の比較

ア 基本的な考え方

- 評価制度の大枠には問題がないことから、平成23年度の見直しで導入した「政策」独自の客観指標も、引き続き重視する。
- しかし、一般の市民の方々により明快に御理解いただけ、市の取組改善に端的に活用できる制度を目指して、次の理由から、「政策」の客観指標評価において「施策」の客観指標評価結果を2分の1の割合で反映することを再度提案させていただきたい。

【理由】

- ① 一見して乖離が著しいと、制度そのものへの信頼が得られにくいこと。
- ② 外部要因の影響が大きいと、市の取組改善に活用しにくいこと。
 - ・ 特に「政策」独自の指標については、外部要因による変動幅が大きいものが多いため、市の取組改善に活用するには、市の取組に近い「施策」の評価を用いた一定の補正も必要と考えられる。
 - ・ 指標自体の見直しも可能な限り進めるが、分野別計画の指標になっているケースもあり、一概には対応しきれない。

【乖離に関するこれまでの対応と反応】

- ・ この間、乖離が生じた際は、市民の方々に御理解いただけるよう、評価制度の仕組みと個々の評価結果の原因について、冊子等において可能な限り分かりやすく丁寧な説明に努めてきた。
- ・ しかし、市会や庁内においても、十分な理解を得ることが難しく、「説明を受けてもよく分からないので、もっと分かりやすい制度に改めてほしい。」などと指摘されたため、説明のみでの対応には限界があると考えられる。
- ・ また、説明しても、「乖離が発生する仕組みのままでは、信頼して評価結果を見られない。」との指摘を受けることも多い。

イ 補足

- ① 乖離の発生原因について分かりやすく丁寧な説明を行う必要があることについて
 - ・ 可能な限り丁寧な説明を行うが、一般的な見方として、まずは評価結果の一覧から概況を把握することとなるため、更に詳細な内容まで読み込んでいただくには限界がある。
- ② 数式の導入により評価方法が分かりにくくなることについて
 - ・ 客観的で明快な評価を行うため、既に数値化や数式を活用しており、それ自体が分かりにくいわけではなく、数式等を用いる理由による。

【この数式を用いる理由】

評価結果全体を総括する冊子「政策評価結果」等において、例えば次のとおり分かりやすく説明する。

政策評価の改善のため、平成23年度から、「政策」と「施策」では、それぞれ別の客観指標を設定していましたが、「政策」の客観指標は外部要因（リーマンショック等のグローバルな経済不況、国の制度変更等）に左右される面もあることから、「施策」の客観指標による評価を加味（評価のウェイトは「政策」：「施策」＝2：1）し、より市の取組み等を踏まえた評価を行うことといたしました。

【「政策」対「施策」＝2対1」の比率の意味】

「政策」に比重を置きつつ、「施策」を最大限尊重できる最も単純な整数比として設定する。

- ③ 「政策」の客観指標の総合評価に「施策」の評価を加えることで、「政策」の客観指標のウェイトが下がることについて
- ・ そもそも「政策」と「施策」で関連性のある指標を設定している。
 - ・ 「政策」独自の指標は維持しつつ、一定程度「施策」の要素を加味することで、より安定的な評価につなげられる。
- ④ 「政策」と「施策」の評価が乖離することで、逆に客観指標の改善や取組の改善につなげられることについて
- ・ 見直しを行ったとしても、調査票上で乖離を認識することができる。
 - ・ 乖離を認識した場合は、指標の見直しを検討するように各局に促すことで、改善につなげられる。

参考資料2 政策評価票の見直し（案）〔再掲〕

平成25年度第1回委員会における意見（要旨）

1 特に異論が示されず、概ね共通と考えられるもの

（1）制度全般について（総評）

- ・ 本格実施から10年経過した現在、ホームページ等を見る限り、他都市の評価制度と比べて、京都市の評価制度は充実している。

（2）評価方法について

【客観指標の見直しの促進】

- ・ 指標の結果が全体の評価結果に直接影響するため、不要な指標の削除や差替えを検討する必要がある、その時期に来ている。
- ・ 目標値の設定に無理のある指標もあるが、特に理由があってそのように設定している場合もある。
- ・ 目標値の設定を含めて全ての指標について議論することは、当委員会のスキームでは困難であるが、少なくとも指標の見直しは可能ということを各局に投げかける必要がある。

（3）評価結果の分析と記載について

【原因分析の充実】

- ・ 評価結果の分析が次の政策推進につながるのに、全体的に不十分である。
- ・ 特に評価結果が悪かったり、変化が著かったりした分野については、原因分析の記述をより充実させるとよい。
- ・ 分かりやすさも大切である。

【まとめ方の工夫】

- ・ 一見して分かりやすいところと、詳しいところが必要である。

（4）制度の活用に向けて

【制度に対する理解の促進】

- ・ 市のサイトに「政策評価をもっと知りたい方のために」というページを設け、総務省の政策評価や全国の事例を紹介するページにリンクを張るなどして、市民意見申出制度の利用者をはじめ、より評価制度について知りたい方を誘導するとよい。

【評価結果の活用促進】

- ・ 評価結果が具体的な事業等の改善に向けて予算に反映される仕組みとし、その過程が見えるとよい。
- ・ 「はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画）」（以下「京プラン」という。）の毎年の進捗状況を市が「京都市基本計画実施状況報告」として取りまとめ、市会に報告していると聞いた。何らかの形で連携させて、総合計画の進行管理と政策評価の一体化を図るとよい。

2 議論があり結論が得られなかったもの

是正の必要性	考え方
なし（4名）	・ 政策指標にも施策指標にも限界がある。政策と施策の成果をそれぞれ大掴みできればよい。 ・ 政策指標のウェイトが下がってしまう。 ・ 指標の設定の問題を除外して、乖離だけ是正しても、意味がない。 ・ 乖離によって、逆に客観指標の改善や取組みの改善につながる。 ・ 是正策によって見た目上の違和感をなくしても、かえって複雑で分かりにくい仕組みになる。
あり（2名）	・ 見た目上乖離があると、恣意的な評価と誤解されやすい。 ・ 「評価結果が外的要因に大きく左右されるのは、評価の仕組み自体がおかしいからではないか」という疑問に対応すべきである。 ・ 外的要因の影響を少なくして、市が取り組んだ成果を評価した方が、評価制度の活用や改善につながる。 ・ ただし、分かりやすい仕組みにすることが不可欠。

参考資料2 政策評価票の見直し(案)

政策番号	1	政策分野	環境
基本方針	豊かな森林資源、伝統文化、進取の気性と創造の力など、京都のまちの特性をさらに高め、京都のまちがもつ「市民力」や「地域力」を総結集し、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現をめざす。		

担当局	環境政策局	共管局	
-----	-------	-----	--

政策に関する 主な分野別計画等	京（みやこ）の環境共生推進計画（平成18～27年度） 京都市自動車環境対策計画（2011～2020） 京都市地球温暖化対策計画（2011～2020） 京都市環境モデル都市行動計画（平成21～26年度） 京都市循環型社会推進基本計画（2009～2020）
--------------------	--

政策指標による評価に対して2分の1の割合で、施策指標による評価を反映させるため、新たに記載欄を追加

政策の評価

1 客観指標評価

政策指標評価		23年度 評価値	32年度 目標値	25年度 評価値	24年度 評価値	25年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	温室効果ガス排出量削減率(1990年度比)(%)	11.4	25	d	b	15.7	2.8	25	11.2%	e
2	本市が受け入れるごみ量(トン)	49.7万	39万	a	b	48.9万	48.1万	48.0万	99.8%	b
				b	b					d

施策指標評価		参照 ページ	評価		
施策番号	施策名		23年度	24年度	25年度
0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全（2指標）	54	a	a	a
0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現（3指標）	56	a	a	a
0103	ごみを出さない循環型社会の構築（3指標）	58	a	a	a
	（3施策平均）		a	a	a

客観指標総合評価 (政策指標評価: 施策指標評価=1:0.5)		23年度	24年度	25年度
		—	—	c

2-1 市民生活実感調査総合評価

《新たな客観指標総合評価の方法》

○ a = 4点、b = 3点、c = 2点、d = 1点、e = 0点 …と点数化

○ 政策指標評価：施策指標評価 = 1：0.5の割合で按分し、1.5で割り戻して評価値を算出

○ 最高値（a = 4点）に対する評価値の達成度（%）を算出
○ 達成度に応じて5段階評価
a = 80%以上100%未満、b = 60%以上80%未満
c = 40%以上60%未満、d = 20%以上40%未満
e = 0%以上20%未満

《サンプルの場合》

○ 評価値 = (1点(-d) × 1.0 + 4点(-a) × 0.5) ÷ 1.5 = 2.0点
○ 評価値 2.0点 ÷ 最高値 4点 × 100 = 50% = c 評価
○ この客観指標総合評価 c 評価と
市民生活実感調査総合評価の b 評価を踏まえ、総合B評価

番号		評価		
		23年度	24年度	25年度
1	京都市民生活満足度調査	b	c	c
2	京都市民生活満足度調査	b	b	b
3	京都市民生活満足度調査	b	b	b
4	京都市民生活満足度調査	c	c	c
5	京都市民生活満足度調査	c	c	c
6	京都市民生活満足度調査	a	a	a
7	京都市民生活満足度調査	a	a	a
	市民生活実感調査総合評価	b	b	b

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

23年度		24年度		25年度	
順位	%	順位	%	順位	%
4	32.0%	4	32.3%	3	91.1%

評価方法の比較 ― 乖離問題への対応の観点から ―

1 現行方式【別個の指標を設定】

考え方 政策と施策とで到達目標のレベルに応じた評価を行う。	特徴 政策と施策のレベルの違いを踏まえた、原則的で理論的な制度設計である。
評価手順 - 政策と施策の客観指標を別々に設定 - 政策・施策ごとに客観指標総合評価を5段階評価 - 客観指標総合評価と市民生活実感調査総合評価を原則1対1の割合で按分し、最終の総合評価を5段階評価	課題等 - 実務上は、適切な政策指標の設定が困難な場合が多い。 - 制度上、政策と施策の評価結果の乖離が生じるため、制度の信頼性や活用の点から改善すべきという意見がある。 - 乖離が生じたときは、個々の評価結果の内容と制度の仕組みに加え、「評価結果を端的に市の取組成果として受け取ってはならない」といった説明が必要となり、分かりにくい。

2 現行方式の補正①【政策の総合評価で施策の総合評価を勘案】

考え方 - 政策と施策とで到達目標のレベルに応じた評価を行う。 - 他方、政策と施策の評価結果は、本来整合するべきものである。 - そこで、総合的な判断を重視する立場から、政策の総合評価において、施策評価結果を勘案する。	特徴 - 政策の総合評価において、施策も踏まえた総合的な判断を行う点で、柔軟な運用である。 - 著しい乖離は解消できる。 - 政策の客観指標評価の独自性は保てる。
評価手順 - 政策と施策の客観指標を別々に設定 - 政策・施策ごとに客観指標総合評価を5段階評価 - 客観指標総合評価と市民生活実感調査総合評価を原則1対1の割合で按分したうえで、下位の施策の総合評価結果を勘案して、最終の総合評価を5段階評価	課題等 - 総合的な判断という点で、恣意的と受け取られやすい。 - 総合的な判断について、説明のしかたによっては分かりにくくなる。 - 政策指標の評価の比重が下がる場合がある。

3 現行方式の補正②【政策の客観指標評価に施策の客観指標評価結果を加算】

考え方 - 政策と施策とで到達目標のレベルに応じた評価を行う。 - 他方、政策と施策の評価結果は本来整合するべきものである。 - しかし、適切な指標の設定は実務上容易でないため、客観的な方法による補正が必要である。 - そこで、政策の客観指標総合評価において、施策の客観指標総合評価の結果を一定反映する。	特徴 - 適切な政策指標の設定が困難との現状を踏まえた実地的な対応である。 - 著しい乖離は解消できる。 - 政策の客観指標評価の独自性は保てる。 - 政策指標を重視しつつ、下位の施策指標の評価結果を反映させる点で、取組改善への活用を目指せる。
評価手順 - 政策と施策の客観指標を別々に設定 - 政策の客観指標総合評価において、下位の施策の客観指標総合評価結果を2分の1の割合で加算して、5段階評価 - 客観指標総合評価と市民生活実感調査総合評価を原則1対1の割合で按分し、最終の総合評価を5段階評価	課題等 1対1といった割合の根拠について、十分な納得を得られない場合がある。 - 政策指標の評価の比重が下がる。 - 評価の仕方が複雑になる。

4 平成22年度以前の方式【主な施策指標を政策指標として活用】

考え方 - 政策独自の指標の設定は困難である。 - また、政策と施策の評価結果は本来整合するべきものである。 - そこで、政策の評価においては独自の指標を設定せず、施策指標のうち主なものをを用いる。	特徴 - 複数の施策により政策を推進するという実態と、施策の評価を総合化して政策の評価を行うという方法が一致するため、分かりやすい。 - 制度上、著しい乖離は発生しない。
評価手順 - 施策の客観指標のうち主要なものを政策の客観指標として設定 - 政策・施策ごとに客観指標総合評価を5段階評価 - 客観指標総合評価と市民生活実感調査総合評価を原則1対1の割合で按分し、最終の総合評価を5段階評価	課題等 - 政策と施策とで到達目標に相違があることに対応できていない。 - 政策の評価の独自性が保てない。 - 平成23年度の見直しが活かされない。

平成 26 年度市民生活実感調査（案）

1 平成 26 年度の実施方法について

経年変化を捉えるため、平成 25 年度と同様の方法で実施する。

(1) 平成 26 年度市民生活実感調査実施方法

- ・ 設問数
 - 生活実感 130 問（アンケート A 票・B 票各 65 問）
 - 政策重要度 1 問（A 票・B 票共通）
 - 市政関心度 1 問（ 〃 ）
 - 幸福実感 1 問（ 〃 ）
- ・ 対象者 3,000 人
- ・ 配付方法 2 組に分けて配布（1,500 人×2 組）

参考資料 4 市民生活実感調査 調査票等一式

(2) 実施日程

	平成 25 年度	平成 26 年度（案）
調査票郵送	5 月 13 日（月）	5 月 13 日（火）
調査開始	5 月 14 日（火）	5 月 14 日（水）
投函締切	5 月 27 日（月）	5 月 27 日（火）
礼状・督促状送付	5 月 28 日（火）	5 月 28 日（水）
調査終了	6 月 5 日（水）	6 月 5 日（木）
調査期間	23 日間	23 日間

京都市市民生活実感調査にご協力ください

平素から京都市政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このアンケート調査は、京都市が取組を進めている様々な分野について、市民の皆様が「どのような実感をお持ちなのか」、また「何を重要と感じておられるのか」について調査することを目的としています。

アンケートの各設問は、「はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画）」（平成23年度から10年間の京都市の都市経営の基本となる計画）に掲げる政策分野ごとの「みんなでめざす10年後の姿」を基に作成しました。

皆様からいただいた回答を集計、分析し、その結果を市の政策評価（※）や市の仕事を効果的に進めるための重要な情報として活用してまいります。

なお、このアンケート調査は、市民の皆様の感じ方から政策、施策を評価し、今後の市政運営に役立てるために、市内にお住まいの方から無作為に選んだ20歳以上の3,000人の方々に記入をお願いしています。

今回お答えいただきました内容は、統計的に処理いたしますので、ご迷惑をおかけすることは一切ございません。

何かとご多忙のこととは存じますが、本調査の趣旨をご理解のうえ、アンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。

平成26年5月

京都市長 門川 大作

※ 政策評価＝政策の目的がどの程度達成されているかを評価し、市民の皆様にお示しするとともに、次の政策、施策の展開に役立てる仕組み

ご記入いただきましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて **5月27日（火）までに** 投函をお願いいたします。

この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

京都市総合企画局政策企画室 「京都市市民生活実感調査担当」

電話 075-222-3035 FAX 075-212-2902

ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000035589.html>

（アンケート調査票は設問数が多いため、2つに分けて実施しています。すべての設問は上記ホームページからご覧いただくことができます。）

記入方法、記入例は裏面をご覧ください。

記入方法

- アンケート調査をお願いしたご本人（封筒の宛先となっている方）がお答えください。
- 直接調査票に記入してください。
- アンケート調査票、返信用封筒には、お名前や住所を記入していただく必要はありません。
- アンケートは「生活実感」、「政策重要度」、「市政関心度」、「幸福実感」、「自由記述」に分かれています。
- ◇ 「生活実感」（1ページから4ページ）
 - ・ 質問ごとに、あなたの実感やイメージに基づき、5つの選択肢の中から1つ選んで○を付けてください。
 - ・ 質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。
- ◇ 「政策重要度」（5ページ）

質問ごとに、あなたにとって今、それぞれの政策分野がどれだけ重要か、5つの選択肢の中から1つ選んで○を付けてください。
- ◇ 「市政関心度」（6ページ）

市政の関心度について、1つ選んで○を付けてください。
- ◇ 「幸福実感」（7ページ）

幸福に関する実感について、1つ選んで○を付けてください。
- ◇ 「自由記述」（7ページ）

市に望むこと、アンケートに関することについて、ご意見・ご提案がございましたらご記入ください。

記入例

生活実感

実感やイメージでお答えください。

分からない場合は何も印をしていただかなくて結構です。

質 問		選 択 肢				
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。		○ そう思う	どちらかという とそう思う	どちらとも 言えない	どちらかという とそう思わない	そう 思わない
環境	Q1. 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	a	Ⓑ	c	d	e
	Q2. 省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	a	b	Ⓒ	d	e
	Q3. マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	a	b	c	d	e
	Q4. ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	Ⓐ	b	c	d	e

* 記入例は調査票A・Bそれぞれの設問に対応（上記は調査票A）

記入方法

- アンケート調査をお願いしたご本人（封筒の宛先となっている方）がお答えください。
- 直接調査票に記入してください。
- アンケート調査票、返信用封筒には、お名前や住所を記入していただく必要はありません。
- アンケートは「生活実感」、「政策重要度」、「市政関心度」、「幸福実感」、「自由記述」に分かれています。
- ◇ 「生活実感」（1ページから4ページ）
 - ・ 質問ごとに、あなたの実感やイメージに基づき、5つの選択肢の中から1つ選んで○を付けてください。
 - ・ 質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。
- ◇ 「政策重要度」（5ページ）

質問ごとに、あなたにとって今、それぞれの政策分野がどれだけ重要か、5つの選択肢の中から1つ選んで○を付けてください。
- ◇ 「市政関心度」（6ページ）

市政の関心度について、1つ選んで○を付けてください。
- ◇ 「幸福実感」（7ページ）

幸福に関する実感について、1つ選んで○を付けてください。
- ◇ 「自由記述」（7ページ）

市に望むこと、アンケートに関することについて、ご意見・ご提案がございましたらご記入ください。

記入例

生活実感

実感やイメージでお答えください。

分からない場合は何も印をしていただかなくて結構です。

質 問		選 択 肢				
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。		○ そう思う	どちらかという とそう思う	どちらとも 言えない	どちらかという とそう思わない	そう 思わない
環境	Q1. 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	a	Ⓑ	c	d	e
	Q2. 省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	a	b	Ⓒ	d	e
	Q3. マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	a	b	c	d	e
	Q4. ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	Ⓐ	b	c	d	e

* 記入例は調査票A・Bそれぞれの設問に対応（上記は調査票A）

京都市市民生活実感調査 調査票

生活実感

質 問		選 択 肢				
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。		そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも 言えない	どちらかという そう 思わない	そう 思わない
環境	Q1. 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	a	b	c	d	e
	Q2. 省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	a	b	c	d	e
	Q3. マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	a	b	c	d	e
	Q4. ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	a	b	c	d	e
男女共同参画 人権	Q5. いきいきと活動して自分の能力を発揮する場所や自分に合った働き方を見つける機会がある。	a	b	c	d	e
	Q6. 女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。	a	b	c	d	e
青少年の成長と参加	Q7. 青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が活かされている。	a	b	c	d	e
	Q8. 青少年がニート※、不登校などの課題に直面したときに信頼して相談できるところがあり、支援がされている。 ※仕事も家事も通学もしていない15歳から概ね34歳までのひと	a	b	c	d	e
市民生活とコミュニティ	Q9. 町内会、自治会など地域の組織の活動が盛んである。	a	b	c	d	e
	Q10. 地域のひとが、環境や子育て、青少年の育成などの地域の課題に、自分たちで取り組んでいる。	a	b	c	d	e
	Q11. 町内会、自治会などの地域の組織の主体的な活動と、それに対する行政の支援とがうまくかみ合っている。	a	b	c	d	e
生活の安全	Q12. 犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。	a	b	c	d	e
	Q13. 事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にくらせるまちになっている。	a	b	c	d	e
文化	Q14. 市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。	a	b	c	d	e
	Q15. 文化財が社会全体で大切にされ、地域の活性化にもつながっている。	a	b	c	d	e
スポーツ	Q16. プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。		そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも 言えない	どちらかという そう 思わない	そう 思わない
産業・商業	Q17. 京都では、さまざまな企業や産業の活動が互いに刺激し合って発展している。	a	b	c	d	e
	Q18. 京都の特色を生かした産業活動が行われている。	a	b	c	d	e
	Q19. 京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。	a	b	c	d	e
	Q20. 京都の卸売市場は、安全・安心な生鮮食品の提供に役立っている。	a	b	c	d	e
観光	Q21. じっくり滞在し、ほんものとふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。	a	b	c	d	e
	Q22. 京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。	a	b	c	d	e
	Q23. 子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。	a	b	c	d	e
	Q24. 京都は、国際会議などが盛んに開かれる MICE※都市になってきている。 ※企業のミーティング、企業研修旅行、国際会議、イベントなどの総称	a	b	c	d	e
農林業	Q25. 京都の農林業は、環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して、地域社会に役立っている。	a	b	c	d	e
大学	Q26. 京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。	a	b	c	d	e
	Q27. 学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。	a	b	c	d	e
国際化	Q28. 京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。	a	b	c	d	e
	Q29. 国籍、民族、文化等が違っていても互いに理解し合い、ともにいきいきとくらするまちになっている。	a	b	c	d	e
子育て支援	Q30. 子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。	a	b	c	d	e
	Q31. 必要なときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを生み育てることができる。	a	b	c	d	e
	Q32. 子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある。	a	b	c	d	e
障害者福祉	Q33. 障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。		そう思う	どちらかという そう思う	どちらかとも 言えない	どちらかという そう 思わない	そう 思わない
障害者福祉	Q34. 働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけるようになっている。	a	b	c	d	e
地域福祉	Q35. 地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。	a	b	c	d	e
	Q36. 地域のつながりが、福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。	a	b	c	d	e
高齢者福祉	Q37. 高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実したくらしを送れている。	a	b	c	d	e
	Q38. 介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしいくらしを送れている。	a	b	c	d	e
保健衛生・医療	Q39. 正しい情報を基に、健康づくりに取り組む人が増えている。	a	b	c	d	e
	Q40. 安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。	a	b	c	d	e
	Q41. 感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。	a	b	c	d	e
学校教育	Q42. 安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。	a	b	c	d	e
	Q43. 子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。	a	b	c	d	e
生涯学習	Q44. 京都には、大学や博物館、神社仏閣、企業、NPOなどが提供する学習機会が豊富にある。	a	b	c	d	e
	Q45. 地域での取組において、幅広い世代がともに学べる機会が充実している。	a	b	c	d	e
歩くまち	Q46. 京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル（くらし方、生き方）が大切にされている。	a	b	c	d	e
	Q47. 京都での移動には公共交通が便利である。	a	b	c	d	e
	Q48. まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。	a	b	c	d	e
都市機能	Q49. 田の字地域*や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。 ※河原町通、烏丸通、堀川通、御池通、四条通、五条通の幹線道路沿道地区	a	b	c	d	e
	Q50. 京都のまちの南部地域が発展してきている。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。		そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも 言えない	どちらかという そう 思わない	そう 思わない
都市機能	Q51. 身近な地域が魅力的になっている。	a	b	c	d	e
	Q52. 身近に誇りや愛着を持てる町並みや風景がある。	a	b	c	d	e
景観	Q53. 大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えている。	a	b	c	d	e
	Q54. 建物を新築するときは、建築ルールが守られている。	a	b	c	d	e
建築物	Q55. 地震や火災に強い建物が増えている。	a	b	c	d	e
	Q56. 長く大切に使える住宅が増えている。	a	b	c	d	e
住宅	Q57. 身近な地域で空き家が減っている。	a	b	c	d	e
	Q58. 災害時も安全に移動できる道路網ができています。	a	b	c	d	e
道と緑	Q59. 市内の道路や橋が、市民の財産として、よい状態で管理されている。	a	b	c	d	e
	Q60. 身近なところで防火意識が高まり、出火防止の取組が進んでいる。	a	b	c	d	e
消防・防災	Q61. 消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。	a	b	c	d	e
	Q62. 応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。	a	b	c	d	e
	Q63. 大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。	a	b	c	d	e
くらしの水	Q64. 水道水がおいしくなるなど、京都の上下水道サービスは向上している。	a	b	c	d	e
	Q65. 水や水辺環境が大切にされるなど、水と共に生きる意識が高まっている。	a	b	c	d	e

京都市市民生活実感調査 調査票

生活実感

質 問		選 択 肢				
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。		そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも 言えない	どちらかという そう 思わない	そう 思わない
環境	Q1. 「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	a	b	c	d	e
	Q2. 太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。	a	b	c	d	e
	Q3. 京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。	a	b	c	d	e
男女共同参画 人権・	Q4. くらしのなかで互いの人権を尊重し合う習慣と行動が広がっている。	a	b	c	d	e
	Q5. 女性も男性も、仕事と生活（家庭や地域活動など）をバランスよく充実できる社会になってきている。	a	b	c	d	e
青少年の成長と参加	Q6. 青少年が社会体験を通して「生きる力」を伸ばせている。	a	b	c	d	e
	Q7. 青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。	a	b	c	d	e
	Q8. 青少年の成長を支援する社会環境と、青少年を受け入れる居場所がある。	a	b	c	d	e
市民生活と コミュニティ	Q9. 地域の一員として安心してくらせるまちになっている。	a	b	c	d	e
	Q10. 多様なNPO*やボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。 ※公益活動を行う市民活動団体の一種	a	b	c	d	e
生活の安全	Q11. 悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害を救済するしくみが整っている。	a	b	c	d	e
	Q12. 消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。	a	b	c	d	e
文化	Q13. 京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。	a	b	c	d	e
	Q14. 文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。	a	b	c	d	e
スポーツ	Q15. 気軽に体を動かしたり、スポーツやレクリエーションを楽しんだりする機会がある。	a	b	c	d	e
	Q16. スポーツイベントや運動会、レクリエーションなどの活動を、スタッフやボランティアとして支えるひとが増えている。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。		そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも 言えない	どちらかという そう 思わない	そう 思わない
産業・商業	Q17. 京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。	a	b	c	d	e
	Q18. 京都の商業は盛んで楽しく買物ができ、元気な商業者が多い。	a	b	c	d	e
	Q19. 働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。	a	b	c	d	e
	Q20. ソーシャルビジネス(社会的企業)*が育ってきている。 ※社会問題(まちづくり、少子高齢化、環境問題など)の解決を目的として収益事業に取り組む事業体	a	b	c	d	e
観光	Q21. 京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。	a	b	c	d	e
	Q22. 京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。	a	b	c	d	e
	Q23. 京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。	a	b	c	d	e
農林業	Q24. 京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。	a	b	c	d	e
	Q25. 市民農園や森林を守る運動、学校の体験学習などにより、京都の農林業が身近になってきている。	a	b	c	d	e
大学	Q26. 京都は、「大学のまち」として学びの環境が充実し、多様な伝統文化芸術等に触れる機会に恵まれている。	a	b	c	d	e
	Q27. 京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。	a	b	c	d	e
	Q28. 大学の人材や研究成果は、産業の活性化と雇用の創出に役立ち、地域の発展にもつながっている。	a	b	c	d	e
国際化	Q29. 京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。	a	b	c	d	e
	Q30. 京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。	a	b	c	d	e
子育て支援	Q31. 京都では、子どものいのちと人権が大切にされている。	a	b	c	d	e
	Q32. 働き方の見直しや男性の育児参加など、仕事と子育ての両立に取り組むひとや企業が増えている。	a	b	c	d	e
障害者福祉	Q33. 障害への理解が進み、障害のあるひともないひとも、認め合い、支え合ってくらせるまちになっている。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。		そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも 言えない	どちらかという そう 思わない	そう 思わない
障害者福祉	Q34. バリアフリー※などの生活しやすい社会環境の整備が進み、くらしやすいまちになっている。 ※高齢者や障害のあるひとが社会生活をしていくうえでの障壁（バリア）を除去し、ハンディキャップなく生活できるようにすること。	a	b	c	d	e
	Q35. 社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。	a	b	c	d	e
地域福祉	Q36. 地域において福祉にかかわる民生委員などのボランティアのひとびとが活発に活動している。	a	b	c	d	e
	Q37. 高齢者の知恵や経験、技能が社会に生かされている。	a	b	c	d	e
高齢者福祉	Q38. 高齢者が地域で見守られ支えられて、安心してくらするまちになっている。	a	b	c	d	e
	Q39. 高齢社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。	a	b	c	d	e
保健衛生・医療	Q40. 利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。	a	b	c	d	e
	Q41. 公共の場では禁煙が進んでいる。	a	b	c	d	e
学校教育	Q42. 保護者や地域のひとびとが学校のさまざまな活動に参画するなど、地域ぐるみの教育が進んでいる。	a	b	c	d	e
	Q43. 学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。	a	b	c	d	e
生涯学習	Q44. 京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。	a	b	c	d	e
	Q45. 生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。	a	b	c	d	e
歩くまち	Q46. 子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。	a	b	c	d	e
	Q47. 歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。	a	b	c	d	e
都市機能	Q48. 地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。	a	b	c	d	e
	Q49. 駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。	a	b	c	d	e
都市機能	Q50. 賞物などの日常生活には、徒歩や自転車、公共交通が便利である。	a	b	c	d	e

質 問		選 択 肢				
質問内容について、実感やイメージがわからない場合は、空欄のままにしておいてください。		そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも 言えない	どちらかという そう 思わない	そう 思わない
都市機能	Q51. 身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいる。	a	b	c	d	e
	Q52. 京都の個性的な町並み景観が守られている。	a	b	c	d	e
景観	Q53. 京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。	a	b	c	d	e
	Q54. 三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。	a	b	c	d	e
建築物	Q55. バリアフリー化された建物が増えている。	a	b	c	d	e
	Q56. 身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくなならないよう改善されている。	a	b	c	d	e
住宅	Q57. 地域の行事や自治会活動に、以前から住んでいるひと も、新しく転入してきたひと、分け隔てなく参加 している。	a	b	c	d	e
	Q58. 低所得者や高齢者などがくらしやすい市営住宅や民間 賃貸住宅が十分に確保されている。	a	b	c	d	e
道と緑	Q59. 京都は緑が豊かである。	a	b	c	d	e
	Q60. 道路や公園などがバランスよく整備され、魅力ある都 市空間が増えている。	a	b	c	d	e
消防・防災	Q61. 京都には文化財を守る意識が根付いており、文化財を 火災などの災害から守る取組が進んでいる。	a	b	c	d	e
	Q62. 防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が 高まっている。	a	b	c	d	e
くらしの水	Q63. 京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。	a	b	c	d	e
	Q64. 京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	a	b	c	d	e
	Q65. 京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心 して使い続けることができる。	a	b	c	d	e